

【公開講座】女性管理職に必要なリーダーシップ

【講師】浜田 敬子さん

1989年に朝日新聞社に入社。99年からAERA編集部。副編集長などを経て、2014年からAERA編集長。2017年3月末で朝日新聞社を退社し、世界12カ国で展開する経済オンラインメディアBusiness Insiderの日本版を立ち上げる。2020年末に統括編集長を退任し、フリーランスのジャーナリストに。

「羽鳥慎一モーニングショー」「サンデーモーニング」のコメンテーターや、ダイバーシティなどについての講演多数。著書に『働く女子と罪悪感』。

【講演概要】

女性初の編集長になるまでにやってきたこと

- ・選択を「自分の意志」でしてきた
- ・決断を自分でさせてもらえる機会に恵まれた
- ・自分の仕事に言い訳をしないことを学び、実践した
- ・無謀だと思っても、やりたいことには手を挙げた

女性のチャンスと、それを阻む障害

- ・自信のなさ ≠ 能力のなさ = 経験のなさ

会社は、同じチャンスを男女平等に与えているか等も影響している。チャンスのなさが経験のなさにつながる。とにかく打席に立ち、思い切りバットを振った経験こそが自信になる

- ・管理職の仕事は部下に任せること、部下の成長につなげること

自分でやってしまっただけでは部下の成長のチャンスを奪う。それは家庭でも同じで、パートナーに家事等を頼まず自分だけでやってしまうと、パートナーの家事のチャンスを奪うことにもつながる。それが結果的に「家庭内でのサポート不足」を生み、女性のチャンスを奪う悪循環になる

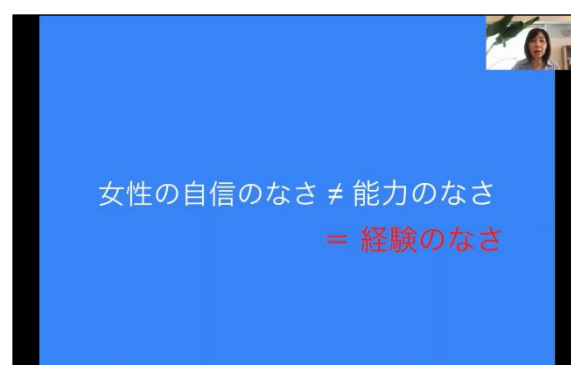
女性の強みと、変化する社会と価値観

- ・企業に求められる新しい価値観

新型コロナウイルスの影響で、働き方と価値観が大きく変化。従来の力強いリーダーより、共感や調整ができるリーダーが望まれている

- ・主流でないところからリーダーに

王道ではない強みを生かせることが、女性のリーダーが求められる背景のひとつである



受講生の感想

- ・自信の無さが〈能力の無さ〉ではなく〈経験の無さ〉というのは、当社の女性職員にも当てはまる内容だ。若い職員にも、失敗を恐れず様々なことにチャレンジをしてほしいと思った。そのためには、先輩や上司の背中を押す力やチャレンジしやすい環境づくりが重要だと思う。
- ・女性に限らず管理職に必要なことは「相手意識を大切にしながら行動すること」だと感じた。相手の気持ちを考えながら、丁寧にコミュニケーションを重ねていけたらと思った。